

健康・環境・経済の観点から21世紀の理想社会を考える ーエコトピア指標の構築に向けてー

21世紀が目指すべき理想の社会は、単に物質的に豊かであるだけではなく、安全と安心が確保され、環境と調和した持続可能なものでなければならない、とする考えが定着してきています。このような理想的な社会を作るためには、自然環境や社会環境が人間の生活に及ぼす様々な影響を的確に評価し、また科学・技術の持つ真の有効性を正しく評価することが非常に重要となります。加えてその評価の結果を分かりやすく表し、人々に伝えることのできる「指標」作りも重要な課題の一つです。特にエコトピア科学研究所では、将来の社会の理想像をエコトピアと呼び、その実現度や貢献度を評価するための新たな指標（エコトピア指標）構築を目指し、プロジェクト研究を進めています。この研究では、エコトピアとして期待される豊かさの評価項目として経済・社会・健康・心理の各項目をいかに取り込んでいくか、ということが大きな課題となっています。

本シンポジウムでは、このような観点から、いくつかの影響評価手法についての理解を深め、またよりよい評価指標の構築に向けての課題を考えることを目的とします。まず影響評価の代表として、健康影響評価を取り上げ、その概念、理論、方法と具体的な応用事例について紹介してもらうとともに、今後の展望について報告していただきます。さらに関連するいくつかの評価と指標の課題として、疫学から見たエコトピア指標、健康評価の観点からの幸福と経済学、環境政策的観点からのエコトピア指標などを取り上げ、その現状と課題について報告していただき、よりよい評価・指標構築の方向性を議論します。

プログラム

- 13:00-13:05 開会挨拶
松井恒雄（名古屋大学エコトピア科学研究所所長・教授）
- 13:05-13:20 シンポジウムのねらい
近藤克則（日本福祉大学大学院医療・福祉マネジメント研究科・教授）
- 13:20-14:40 健康影響評価（仮）（日本語の解説あり）
Andy Pennington（英国 Liverpool大学・講師）
- 14:40-15:10 疫学から見たエコトピア指標
尾島俊之（浜松医科大学健康社会医学講座・教授）
- 15:10-15:30 休憩（20分）
- 15:30-16:00 持続可能性の観点から見たエコトピア指標
藤川清史（名古屋大学国際開発研究科・教授）
- 16:00-16:30 エコトピア指標をどう設計するか
浦島邦子（文部科学省科学技術政策研究所上席研究官）
- 16:30-17:00 資源・環境の評価とエコトピア指標
藤井実（名古屋大学エコトピア科学研究所・講師）
- 17:00-17:30 討論とまとめ
田原譲（名古屋大学エコトピア科学研究所・教授）
- 17:40～ 懇親会（会費制:3000円（学生2000円）を予定）

参加費無料

※懇親会を除く

日時

平成22年1月31日(日)
13:00～17:30

場所

名古屋大学シンポジオンホール
（地下鉄名城線「名古屋大学」2番出口豊田講堂の右を回り、その裏）

申込み方法

参加費は無料です。参加をご希望される方は、当日受付可ですが、電子メールにて御名前、御所属、懇親会参加の有無について伊東まで、ご連絡下さい。
申込み先：名古屋大学エコトピア科学研究所 特任助教 伊東 宛て

itohideyuki@esi.nagoya-u.ac.jp



メールアドレス



主催：名古屋大学エコトピア科学研究所
共催：日本福祉大学健康社会研究センター・HIA (Health Impact Assessment) 研究会